

MDJ プレスリリース

MEDICAL FAIR THAILAND 2019

ファイナルレポート



9 回目のバンコクでのメディカル・フェアは東南アジアで最もヘルスケア関係者に認知された展示会に

過去最大規模での開催を記録しただけでなく、商談も活況で参加者の満足度も高く

- ・ 隔年開催の同展の来場者数は前回比 28%の増加で活発な商談が行われた
- ・ 出展 900 社のうち、日本からは 76 社が出展

東南アジアにおけるメディカルとヘルスケアの専門見本市である MEDICAL FAIR THAILAND は、2019 年 9 月 11 日～13 日の 3 日間、バンコクで盛況のうちに開催された。9 回目の開催となる同展は、規模の拡大に伴い、今回より会場を BITEC に移し、過去最高の 11,525 名のビジターを集め、出展者も同じく 21 のナショナル・パビリオンを含む 70 を超える国と地域から 900 社が



参加した。ビジターの増加率は前回 2017 に比べ 28%を記録し、タイ以外の外国ビジターの増加率は同じく 40%となった。特に近隣国であるカンボジア、ミャンマー、およびベトナムからのビジターも増加となり、9 回目の開催となった MEDICAL FAIR THAILAND 2019 が、東南アジアのヘルスケア産業における有効なビジネス・プラットフォームであることが改めて確認され、エリアで最も認知されたメディカル・フェアの地位を揺るぎないものとした。

同展へのビジターの関心は、メディカルやヘルスケア分野のソリューションやイノベーションな製品であり、特にメディカル・ツーリズムが盛んなタイでは、病院関係者やディストリビューターが、より質の高い製品を求めて来場し、3 日間の会期は商談展示会としての活況を呈した。ビジター・グループはタイ以外からも多数参加し、MEDICAL FAIR THAILAND の国際性も高めた。

2003年に初回開催となったMEDICAL FAIR THAILANDは、177の出展者でスタートした。以後、バンコクで隔年開催の同展は、回を重ねるごとに規模を拡大し、タイや東南アジアでのヘルスケア需要の高まりに併せ、16年間で商談展示会としての大きな発展を遂げている。そして、より専門性の高い展示会として今回の開催では2つの新たなイノベーティブな試みが披露された。一つは高齢化対策が急務なタイのニーズに応えた介護・福祉機器製品の展示エリア。こちらではリモート・センサーやモビリティ製品などのソリューションが出展展示され、病院やケアホームの関係者からの注目を集めた。もう一つはスタートアップ企業の展示エリア、**Start-up Park**である。こちらはスタートアップ企業がポテンシャルな投資家や顧客と出会うプラットフォームをコンセプトに開催され、ユニークな医療機器やテクノロジーなどが、日本の2社をはじめ、シンガポール、韓国、香港、台湾、そしてタイから出展された。会期中に開催された各社のプレゼンテーションや全体のパネルディスカッションは、新しいモノ、ソリューションを探しに来た来場者が、そのユニークなアイデアを注視していた。

増加したビジター数の背景としては、タイ国外からのビジター増加だけではなく、地元バンコクをはじめ、タイ国内からの病院関係者のグループ訪問の急増が挙げられる。私立、公立の病院やヘルスケア施設などからのグループ訪問はいつもに増して多く、具体名としてはバンコク病院、キングチュラロンコン記念病院、ラームカムヘーン病院、ウェーチャターニー病院などを含む95もの病院や施設がMEDICAL FAIR THAILAND 2019にビジターとして参加し、導入や購入を希望する医療機器などの視察と商談を行った。

また、開催地タイは国として推進しているタイ4.0イニシアチブにおいて、世界的な医療介護製品のプロバイダーを目指しており、医療機器製造などのハブ拠点としての存在感を強めている。このような背景から今回、同展において、**Thailand Center of Excellence of Life Sciences (TCELS)**、**Medical and Health Device Manufacturers Industry Club (MEDIC)**、そして**National Innovation Agency (NIA)**による3つのタイ・パビリオンが60の出展者を集めて設置され、タイのヘルスケア製品を業界関係者にアピールした。特にNIAはMEDICAL FAIR THAILANDとシンガポールで開催のMEDICAL FAIR ASIAに通算5回目のパビリオン出展となり、タイの医療機器メーカーの存在感を着実に高めている。

日本からの直接出展者は76社と、今回も多数を数え、東南アジアでの販路開拓を目指す日本企業のブースで活発な商談が3日間の会期中に行われた。パビリオン出展も東京都中小企業振興公社をはじめ、AMED、神戸市の先端医療振興財団、大阪商工会議所、福島県、仙台市、さいたま市がパビリオンやグループとして出展し、単独出展者同様、日本製品を求めるビジターとの商談や製品のプレゼンに注力した。

今回のパビリオンに出展に関し、シンガポールでのメディカル・フェアと合わせて 6 年連続のパビリオン出展となる東京都中小企業振興公社は次のようにコメントした。

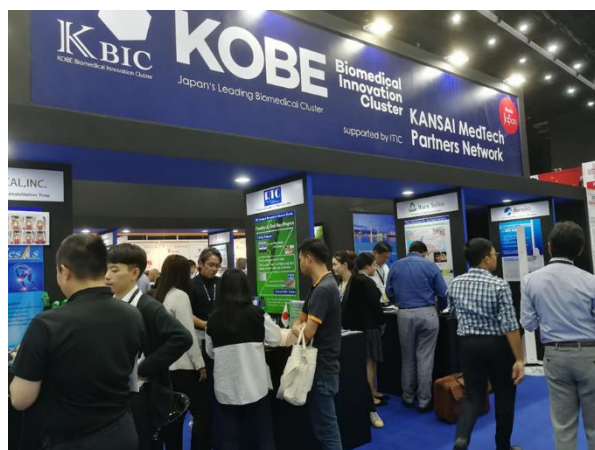


「東京都の中小企業 12 社と共に出展した。メディア等の訪問もあり、連日盛況で、東京の製品に対する期待度の高さをうかがうことができた。出展企業からは、「タイのみならず東南アジア各国のディストリビューターの来場が多数あり、有意義な商談ができた」との声が多かった。既に具体的な商談が複数進んでおり、出展の効果を早くも実感しているところである。今後とも Medical Fair を通して ASEAN でビジネスが展開していくことを期待している」

スが展開していくことを期待している」

続いて Kansai としての共同パビリオンで出展の神戸市の先端医療振興財団、大阪商工会議所のコメント。

「初日から、VIP 関係者の訪問や、シンガポールのテレビ局の取材を受けた神戸医療産業都市の共同出展ブースですが、今年も昨年の MEDICAL FAIR ASIA に引き続き、KANSAI MedTech Partners Network として 17 社とともに共同出展しました。会期中、来場者の流れが止まることなく、タイ国内外の来場者で大変にぎわいました。過去最高となる約 1,400 件の商談を実施し、タイが医療機器開発企業にとって魅力ある市場であり、ハブであることを再認識しました。今回の来場者へのお礼とフォローアップを行いつつ、来年のシンガポールで開催される Medical Fair Asia を見据えた準備に取り掛かりたいと思います」



また、単独出展にて感染症遺伝子検査紙を出展した株式会社 TBA は次のようにコメント。

「3 日間、弊社ブース来訪や他社ブース訪問にて、多くの面談を持つことができました。ブース来訪ではタイ、フィリピン、台湾をはじめアジア各国から来訪者があり、企業だけでなく政府関係者との話もできました。出展者も参加者もアジア各国から多数集まるので、既存取引先との面談にも、新規取引先の開拓にも効果的だと思います」

続いて病院・老人施設の厨房用製品を出展したエレクトー株式会社のコメント。

「弊社同様の製品は少なく逆に目立って良い商談ができました。予想以上にタイ以外の東南アジアの来場者がいらっしゃいました。特にフィリピン、マレーシア、インドネシアの方が多く、これからの展開に期待が持てそうです。タイ国内からは病院や老人施設関係者が多く、経営層の方々も多くいらっしゃいました。日本の同類の展示会と比較して、非常に購買意欲を感じました。日本の展示会は情報収集の要素を強く感じます」

9回目の開催となった同展は、タイにおける旺盛なメディカル・ツーリズム需要、高齢化社会へのソリューションに加え、東南アジアのヘルスケア・マーケットの成長を背景に、エリアの業界関係者から参加必須の商談展示会としての地位を改めて確立した。

今後の東南アジアにおけるメディカルとヘルスケアの専門見本市は、来年シンガポールで開催の [MEDICAL FAIR ASIA 2020](#) (2020年9月9日～11日、マリナ・ベイ・サンズ)、次いでバンコクでの [MEDICAL FAIR THAILAND 2021](#) (2021年9月8日～10日、BITEC) となる。

MEDICA 主催・共催の世界のメディカル・フェア、MEDICAlliance はこちら：

<https://www.medicalliance.global/en/Welcome>

<https://medica.messe-dus.co.jp/exhibitors/messe-calendar/>

(株)メッセ・デュッセルドルフ・ジャパン 担当：服部

〒104-0094 東京都千代田区紀尾井町 4-1 ニューオータニガーデンコート 7F

Tel.03-5210-9951 Fax.03-5210-9959 / mdj@messe-dus.co.jp www.messe-dus.co.jp